

樺櫻カハヤシ、キトセン、アカツイヤ、及び野生葡萄等なりとす。該地方は、氣候不良にして、他の同緯度の地に比すれば、其植物最も尠なく、其發育も甚だ宜しからず。木材の如きは多く屈曲錯節して用に適せず。半島の大半は、沼澤及び原野にして、溪流小川亦尠ならず。其内最も著しきは、リヤンナエ、セダンへの二川とす。共に流に沿ふて木材薪材を積下すを得。リヤンナエの如きは川口より二里の間、舟楫に便なり。此二川及び一番川タワイザ（二番川）の二川は毎秋に至れば、鮭の上るを甚だ多し。鮭は鹽漬にして其味佳なり。其他の諸川は年により鮭多けれども、又更之を見ざるにあり。一番川は浦鹽斯德より三里、二番川は同所より五里半の所にあり。此二番川の邊に屠の畜檢疫所あり。

半島は土地未だ多く開拓せずと雖とも、其中耕作、牧畜、野菜、及葡萄等の栽植に適したる沃地も亦尠なしとせず。浦潮斯德より六里の所に私設葡萄園あり。此地の野生葡萄及び南部露西亞亞米利加の種苗をも栽植せり。其事業は益々發達して、將來好良の葡萄酒を製出するに至るべき望あり。

セダンへ川邊には稍々耕作に適するの地あり。リヤンナへ川、以北アムール灣岸の地も、亦凡て耕作に適せざるはなし。

地質は粘土最も多く、亦往々石多き所あり。リヤンナへ川よりウグロカイ驛に至る迄の間は、凡て黒色の沃土なり。今之を開拓して耕地を得んこと、甚だ難きにあらず。然れども露の殖民は皆ヌスリー河ハンカ湖等最も開墾に便なる方向に在り。未だ耒耜を此地に下さず。

ウスリー灣岸タイローハ河邊には、大なる石灰質の岩石甚多く、支那人等石灰を焼き、之を浦鹽斯德に積出して、建築の用に供す。此地に住む支那人は、夏は石割り石灰焼き等を業とし、冬に至れば木材及び薪を伐出す。灣内は波濤極めて暴らく、又た沿岸に良港なきを以て、移民に便ならず。

アムール灣の岸上には、砥石質の石多く、其内或は御影を出たす。

半島中農民なきが故に、農業未だ少しも開けず。菜園も亦然り。

半島の住民、多くは浦潮斯德に集合し、其他は所々に散居すること。浦潮斯德より三里半。即ち一番河の邊に未滿期罪人の移村あり。此地は當時浦潮斯德に監獄なきを以て開かれたるものにして、罪人の服役は主として官の事業、殊に海軍建築部の工事を課し、且つ市内不潔物の掃除に従事せしむ。

一番河には麥酒製造所ありて、二十人の人口を有す。其外セダンハリヤンナへの二河邊に村落あり。又マイワザ河に支那人の村落あり。

ルツスキ嶋は凡て森林を以て蔽はれ、面積一百十万里あり。而して浦潮斯德を距ると六里。トカレトフスキ岬端より四百「サーセン」を隔つ。往民は東方西比利亞第二大隊の二分隊、及び支那人のみなり。支那人は夏は一千人の多きに達すれども、常住して冬に至るものは、三百人に止まり、其戸數八十以上なりとす。支那人中の一部は、漁業を營み、又「キヤベツ」馬鈴薯、大根、人參、蕪菜、「ナサ葱」

等の野菜類を作り、大麥、燕麥、粟、玉蜀黍等の雜穀を收穫す。此地氣候霧多くして、穀草に害あれども、其結果甚だ宜し。地味は黒土にして、最も植物の栽培に適し。泉源甚多し。嶋中には山羊雉子等を産す。

第二章 浦潮斯德の畧歴史

千八百五十六年、英船「ウヰンナエステル」號始めて此港に來り、此港を「メイ」と名つけたり。

露船の始めて此港に來りしは、千八百五十九年レイラナントシエフチル氏の率ゐたる帆船なり。

千八百六十年露の運送艦「マンジュール」號にて警備兵四十名を此港に派遣す。○同年レイラナントエチリシユリド氏其率ふる所の「コルベツト」船「グリーン船」號と共に此地に冬を過し、而して寺院を建設せり。○千八百六十二年、浦潮斯德を以て「ポルトフランコ」と定む。○千八百六十四年二等カピタンシユコット

氏ピエトルウエリーキー灣内に在る諸港の長官に定められ。同年市廳を設け、市長を置く。

一千八百六十年代の終りには、五十の建物六百の兵士を見るに至れり。其後にコラエフスクより軍務の樞機を此港に移すに至りて、益々昌盛となり、千八百八十五年には、人口一萬に達し、内五千は兵士なり。商業も之に伴ふて發達し。同年には商船入港の數七十、其積載する所六萬噸、而して其價格は大凡四百五十萬ルーブル以上に達せり。千八百八十四年には、官設を除き、其他の建物五百七十戸に至り、商業は一百十四戸の大小商店に由て取扱はれ、客店飲食店の類、四十一戸あり、朝鮮より陸地を経て輸入するもの、六千頭の生牛、及び四萬「ブード」の燕麥等あり。

千八百八十年より、此港とオデッサ港との間に、露國義勇艦隊の汽船を以て定期航海を開き、爾來商工業とも益々發達し、市民の便利を得ると昔日の比にあらず。一千八百九十一年、露國太子此港に來りて、西比利亞鐵道の起工式に臨み、列車の試運轉をなす。

若將來浦潮斯德に代ふるに、其の南方の海港、ボンエツトを以てせざる限りは、浦潮斯德の倍々發達して、東洋諸港に冠たるに至らんと期して待つべきなり。

○氣候

此地方の氣候は、一般に他の同緯度に位せる地方に比して、一層近寒なり。之れ北方より大陸に沿ふて流れ來る所の寒潮の作用に由らすんばあらず。寒潮は唯々近寒の度を強からしむるのみならず、之か爲に夏時は南及び東南の暖風多量の水蒸氣を北方寒潮の上に吹來り、凝成して雨霧となる。故に夏時は非常に雨霧多く、溫氣甚しく、不快之より大はなし。水氣を含みたるものは皆微を生じ、樹木の枝葉も微菌を以て封せらるゝとあり、食料品は腐敗し易く、煙草の如きは大に濕りて味を損す。此霖雨の爲めに、井水は溷濁して飲むに堪へず。稀れ

に雨降らざる日は極めて蒸し暑く。列氏の驗温器日影にて三十度に達するこあり。夜に入りても猶甚だ清涼ならず。

秋は一年の中最も好時節にして。熱高からず。微風徐々として市内の空氣を一洗す。快晴の天氣最も多し。而して寒暖に劇變なし。

冬は尙快晴の天氣多く。而して常に北及西北の強風吹き。空氣は大に乾燥し。煙草は乾きて碎粉となり。木板の如きは乾きて自ら割裂するに至り。家具等の損壞少からず。○雪は極めて少なくして。橇を行ふに適す。而して降雪時は。強風之を拂ふて海に吹き落せども。若し風なく雪降る時は。大に積るとあり。此の如きとは一年中僅に二三日あるのみ。○冬期大風の吹くこあるは。十月初旬より十二月正月の間なりとす。驗温器は列氏の零以下。二十七度に降下し。寒氣殊に甚たし。

如斯寒威の高度。空氣の乾燥。及風勢の強烈は。土地の乾涸を來たし。市内僅かに有せる井水にも不足を告ぐるに至る。○地面は「サーゼン」の深さ迄凍結す。○連日の寒風凜烈にして。常に塵埃を揚げ。行路の人殆ど呼吸す可らざるに至る。○春の始めは氣象極めて良けれども。暮春に至つては。或は雨或は霧。又時としては雪を交へ。驗温器の高低常なく。天氣屢々劇變し。冬に比すれば風和らくと雖。時としては極めて寒風吹き。空氣の温度愈々甚しく。曇天多くして快晴少なし。故に四時の内春は最も悪き時候とす。

浦鹽斯德は其氣候を以てせば。敢て他に誇るゝ能はざるの地なりとす。

第三章 住民

浦鹽斯德の狀態を概括すれば。全く政略上の原因より發達して今日に至れり。而して將來政略上經濟上共に必要なる一海港とはなれり。故に現時の住民の如きも。其の主とする所は露國の海陸軍武官兵士等にして。其他の商賈職工等は。直接間接に皆之に附隨して利益を收むるの徒なり。

一千八百八十四年には、人口一萬六十九人、即ち男八千三百六十二人、女一千七百〇七人にして、其内露人六千一百九十七人、歐米人八十七人、支那人、朝鮮人、日本三者合せて三千七百八十五人なり。而して兵營及官の建物を除き、私有の建物七百八十五戸に止れり。

然るに一千八百八十六年には、人口大凡一萬三千六百に上り、其内精確の調査を経たるは、軍人のみにして、其他は明らかならず、即ち左の如し。

海軍	陸軍	露人		外國人		計
		男	女	歐米人	日本支那人	
士官 〇、一五八	〇、〇四九	二、一三三	〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	〇、二〇七
兵卒 一、九八〇	一、五二八	二、一三三	〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	三、五〇八
家族 〇、五八五	〇、四二八	二、一三三	〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	一、〇二三
其他 住民		二、一三三	〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	八、八〇〇
計		二、七二三	二、〇〇五	二、一三三	二、一三三	一三、五二八

露人の猶太教徒は港内に住する權利なしと雖も、間々其宗教を變して此港に來り、商業に従事するものあり。

支那人朝鮮人の春より來りて、此地の勞役に従事し、秋に至りて歸るもの毎年三千人餘なり。

現時市民の増加すると共に、兵士も次第に増加し、今や歩兵三大隊、塞砲兵二分隊、劍兵一分隊あり、尙此上に陸軍一大隊を増遣さるへき豫定なり。

其后一千八百九十一年迄に著しく増加し、多く未だ正確の調査を得ずと雖も、既に二萬の人口を有するや明らかなり。

露國官報の記する所によるに、沿海州全道の地積百五十萬方里の間に、目今在住する人口は總計十二萬人に過ぎず、其内五割三分八厘のみ、露國人にして、其他は總て異種族人民なり。州の南部に於ける住民の總數は、八萬五千人に上ると雖も、露國人は男女合せて、五萬七千人あるのみ。

第四章 諸般の事業。住民の活業

半島中耕作の開けさるは。必竟耕地の尠なきと。農民なきとに基因する。既に上に述へし所なり。○陸海軍需要の食料品。麥粉米鹽等の如きは。皆他地方より輸入し來るものなり。

市内の商賈等も常に同地方の諸村落。及外國より穀物麥粉等を輸入して。之を販賣す。極上等の麥粉は歐部露西亞。及カリホルニヤより輸入す。若し戰時に際せば。住民は忽ちにして飢餓に陥るとなきを保せず。

官の蒸氣製粉所一ヶ所あり。又外に商人リンドゴリム氏の蒸氣製粉所あり。又風車製粉場一ヶ所あり。

野菜類は皆ルツスキーアスコリドの産する所を持ち來り。其他果物は日本朝鮮支那より輸入し來る。

牧畜は未だ適當の場所を得ず。唯此より八十里を距る所に馬牧あり。良馬を産

す。

獸獵はルツスキーアスコリドの二嶋及び大陸地方に於てすへし。鹽浦の近所には。野獸甚た少なしとす。

海上の漁業は悉く支那人の手に歸し。其内海參、昆布、最も巨額を占め。之に次ぎて鮭、鱒、鯉等の魚類、蟹、蝦の類。其種類尠ならず。冬に至れば。ウスリー地方より凍りたる魚類を輸送し來る。

薪材伐採の業は。半は歐人に屬し。半は支那人に屬す。

荷車運送業は。凡て支那人の手に歸したり。

枯草は。陸軍用のものは兵士を使ひて之を辨す。市民は皆支那人より買ひ求む。故に此業は皆支那人の手に歸したり。

建築用木材板類石等の供給。其他建築も多分は支那人の一手に歸せり。

港内舢舨の數は二千艘に下らず。皆支那人下等社會の營業たり。千八百八十五

年には。此短艇より收取せし税額五千九百二十七「ルーブル」に達せり。海軍に屬する機械製作場。及び造船場あり。外の石灰製造。煉瓦製造。及び木材挽割器械場等あり。陸軍にも建築製作等の諸部を有す。

煉瓦製造は。主として獨逸人の手に屬せり。○「ビール」製造所あり。其製造の「ビール」二「ウユドロ」(甘瓶を以て二「ウユドロ」とす)五「ルーブル」を價す。此「ビール」は浦鹽斯德に販賣するのみならず。近時は他の諸地方に向て積出すに至れり。其製造に供する所の大麥は。主として外國より輸入し。時としてはウスリー州中の地方より取寄す。製造所は浦鹽より三里半一番川の邊に在り「ビール」の品位は中等なりとす。

鞣革の職工あれども。其術甚粗拙にして良品を托するに堪へず。○時計職人には歐人、支那人、日本人あり。○仕立屋は支那人のみと云ふを得へく。内に一二の日本人あるのみ。○大工は露人、支那人、日本人あり。内日本人最も其事に巧みに

して。雇賃も亦支那人の上に出づ。○錠前職人、鍛冶職人、靴師、製本師、寶石職人等は皆露人に屬せり。

麵包製造は露人と支那人と相半し。○「カルパス」製造は其額微々たり。○「クウス」と稱する飲料水は。露人の一般に嗜好する所にして。夏時の如き殊に多く之を用ゆること。日本に於ける氷水、ラムチ等の如し。其製造は多く支那人の手に歸すれども。其製出する所。品位惡しく。露人の製するものは遙に之に勝れり。「クウス」に赤白の二種あり。白を以て上とす。

洗濯屋は。凡て日本人の手に歸し。一枚に付六「コペーク」より十「コペーク」に至り「シャツ」の類は十五「コペーク」とす。港内に多數の軍艦の泊するときは。洗濯屋の手廻り乘て大に困ることあり。

雇人の種類は「コック」「ボーイ」「子守、下男等、種々あれども。多くは支那人、朝鮮人を用ひ。内に日本人もあり。露人が最も望む所は日本人にして。其善良にして清

潔なるを愛するものゝ如し。就中子守の如きは。日本婦人を以て最上と定む。次
きに支那人。又其次きに朝鮮人とし。朝鮮人は多く下男に使はる。露人は大抵酒
を嗜むが故に。雇主に於て之を好まざる者の如く。支那人は機敏にして能く用
を辨すれども。不潔の癖あり。朝鮮人は溫柔なれども。竊盜の癖あり。是等諸國人
は皆露語を用ひて其用を辨す。其知る所少なく。其語る所正しからざるにも關
はらず。甚しき不便を感ずるをなし。給料は一ヶ月十「ルーブル」以上二十五「ル
ーブル」に至る。

市中道路にて。重量の物を負擔せしむるには。朝鮮人を呼びて之を雇ふなり。譬
へは店にて買物をなし。之を家に運はんとするには。道にて「カオレ」(朝鮮人)と
高聲に呼へは。道路に客を待ち居る朝鮮人直に來りて之に應ず。彼が僅に擔得
べき程の重量を負ひ。市の端より端に達するも。十「コペーク」乃至十五「コペ
ーク」にて足り。其他少距離の間は。五「コペーク」を常とす。一時に五人十人を呼び

集むるも難からず。

市内の辻馬車は。其數少なくて。途上不時の用には。俄に之を得難く。唯市内二
三の所に幾臺も屯在して。客を待つのみ。夜に入れば晝よりも猶妙なき故に。屢
々數里の所を徒歩せざるを得ざるとあり。之を雇へば一時間に。八十「コペーク」
を要し。半時間は其半を要す。

水汲み及び荷車も。亦支那人の業とする所なり。一家數口の人。一ヶ月間の水を
汲ましむれば。五十「コペーク」より一「ルーブル」半に至る。是其井戸よりの遠近
に由れるなり。

第五章 商業

浦鹽斯德の商業は。年を追ふて盛大に赴くとは論を待たず。其商賈を大別して。
露人、獨人、支那人及日本人とするを得可し。露人獨人の商業は。各々自國の貨
物を扱ふを主とせり。而るに先きには露國産物より。獨國産物の輸入多かりし

に千八百八十五年義勇艦隊の船舶。オデッサ浦鹽間の航海を開き。且つ輸入品の一部に關稅を課せしより。露國の産物は市場に勝を制するに至れり。獨商等は早くも其商業の方向を轉して。露國の産物をも取扱ふことを勉められた。市場に最も勢力を有するは。露國貨物なれども。其商權の大部分は。猶ほ獨商の手に在りて動かざる者の如し。支那人が此地の商業上に有する勢力は。決して露獨商賈の下に在らざるへし。其取扱ふ所の貨物の額は詳ならざれども。一百戸餘の大小店軒を連ねて。海岸の好地位を占め居れり。日本人の商業は未だ微々として振はす。僅に二ヶの大店と五六家の小店あるのみ。支那人の取扱ふ貨物は支那及日本の物貨にして。日本人の取扱ふ所は。單に日本貨物に止まり。而して己れの當さに有すへき商權の多分は。既に支那人の爲めに占奪せられたり。加之ならず支那人は進んで。歐人(露獨)の商業域内にも浸入し。數年前より歐州物貨の直引を始め。爲めに港内の物價に大なる影響を及ぼしたる跡あり。當港輸

出の物貨は。僅に金額二十萬「ルーブル」餘なりとす。而して此輸出貿易の多分は支那人の手に歸せり。○此港に輸入する貨物の需用者は。露人を第一とす。唯此港の露人のみならず。ハバロフカブラゴウエーシチエンスクニコラエフスクニコリスクポシエツト樺太島等には。此港より貨物を轉輸し。其需要を充足せしむるなり。第二を支那人とす。支那人は此港に住する者のみにて。五千の人口あり。又内地各處にも。多數の支那人散居し。浦鹽斯德より貨物を琿春に轉送し。遠くは吉林迄も送るとあるなり。第三を朝鮮人とす。朝鮮人は本港及其近傍各地。ウスリー州内に住する者既に數万の人口を有す可く。亦本港と朝鮮北境との間には。陸地貿易を開き。彼れよりは生牛を輸入し。此よりは金巾毛織物其他諸雜貨を輸出し。其貿易は年々増進するのみなり。此の如く浦鹽の商業は。未だ幼稚の年代なれども。其種類は極めて複雑なるものなり。

本港商業の年を追ふて増進するの原因は。一にウスリーの地方殖民の増加。二

に浦鹽斯德海陸軍備の定策。三はハバロフカブラゴウエーシチエンスク其他内地との交通年を追ふて頻繁なるに至る。四に琿春地方清國殖民の増加。五に朝鮮人移住の増加。六に水産物其他輸出品の増加等にして、將來西比利鐵道完成を告ぐるに至りては、其結果茲に喋々するを要せず。本港商業の發達を妨げて、一の欠點とする所は、輸出産物の少なきとなり。將來の輸出産物に注目すべきものは、水産林産及び鑛産の三種に止まれるものゝ如し。

第六章 船舶

入港する船舶は、シベリヤ艦隊及び太平洋艦隊を除く外、日本、獨逸、英國合衆國、佛國、連馬、瑞典、諾威等の商船時々に入港す。

我郵便會社の汽船は、神戸より長崎、釜山、元山を経て、浦鹽斯德迄の定期航海を開き、露國サデツサ港より浦鹽との間には、露國義勇艦隊の汽船六艘を以て、毎

年春秋二期の航海をなす。

本港在籍の船舶には、「バイカル」號(八百噸積汽船)「シベリ」號(百噸積)「スクーナ」形「エミリーヤ」(六十八噸積帆船)及「ピオチル」(スイフン河小汽船)外車十一噸積等なりとす。

千八百九十一年より「ウラジミル」號「スツレロク」號「ノーウ井ク」號の三艘を以て、上海、長崎、朝鮮、浦鹽間に航海せしめ、ウラジナストクバイカル二船をして北方ニコラエフスク線を航海せしむ。是等の諸線路を航する船は、皆「マイル」に付三「ループル」宛の保護金を露國政府より補助せらる。

以上諸船の外に、朝鮮形支那形の大小舟船ありて、近海即ち北はオリガ灣より南はポシユットに至るを回航す。其大形の者七百餘艘に上り、舳舟の數は二千艘に上れり。

舳舟は皆支那人の業に屬す。其構造極めて不細工なれども、甚堅牢なり。長さ十

尺餘にして縁高く形箱の如し。一艘に一挺の櫓を附したり。大抵の強風大浪にも能く之を凌ぐ。商船入港すれば争ふて之れに漕ぎ付け。其用を辨するを。我諸港に於ける舳舳に同じ。其雇賃は片道十「コペック」を常とし。夜中は之に倍す。大形の支那船は。底淺くして縁廣く。積載は少なけれども。能く劇浪怒濤に耐ゆ可し。帆檣は二本にして。我合の子形船の帆に似て。其操縦甚た便利なり。五十石乃至三百石積位なりとす。此船に多少の運賃を拂ふて。少量の貨物を積載し。或は全船を借り受けるを得。

第七章 浦鹽斯德生活の便否。并物價。

生活の便否を一日に見るへきものは。物價表なりとす。故に物價表を掲げて。一千八百八十一年の相場と。千八百九十年の相場を比較せんとす。

品目	千八百八十一年	千八百九十年
貸家一棟	四〇、	二〇、
<small>二部屋并ニ脂方部 屋附一ヶ月家賃</small>		

薪 丸木	一「サーゼン」	八、	四、五〇
牛肉 上等	一「プート」	八、	六、ヨリ 七、マテ
同 二等全		六、	四、
豚肉 全		一、二、	八、
鶏 一羽		一、	〇、七五
鴨 全		一、	〇、三〇ヨリ 〇、五〇マテ
鵝 全		二、	一、〇〇
鶯鳥 全		四、	二、五〇
雉子 全		一、	〇、二〇ヨリ 一、迄
七面鳥 全		全	一、二、ヨリ 一、五、迄
小ブタ 一頭		全	一、五〇
山羊肉 一「プート」		全	一、四〇

鹿肉 全
 卵 百ヶに付 春
 牛乳 一瓶 冬夏
 牛酪 一「アード」
 日本白米 全
 日本鹽 全
 露砂糖 全
 全蠟燭 一斤
 全石鹼 全
 全石油 一箱
 全「スピルト」一「ウエドロ」
 全「キヤベツ」菜 百個

一
 五、三
 〇〇、二〇
 〇〇、四〇
 二〇、
 二、五〇
 一、二五
 一〇、
 〇、四五
 |
 |
 |
 一四、〇〇
 〇〇

二、四〇
 一、五〇
 四、〇〇
 〇〇、二五
 〇〇、二〇
 一六、
 一、八〇
 〇、六〇
 〇、六〇
 七、五〇
 〇、三〇
 〇、一五
 四、一五
 一八、〇〇
 三、ヨリ
 五、迄

馬鈴薯 一「アード」
 大根人參 全
 葱 全
 玉葱 全
 胡瓜 百本に付
 管素麵 一斤
 燕麥 一「アード」
 材木 六寸四角
 長三「サーベン」
 荷車并馬方 一日雇賃
 露人人足 全
 支那人 全
 朝鮮人 全

一〇、四〇
 一、〇〇
 一、〇〇
 三、五〇
 六、〇〇
 二、〇〇
 〇、五〇
 一、二五
 五、〇〇
 |
 |
 |
 |

〇〇、二五ヨリ
 〇〇、四〇迄
 〇〇、四〇ヨリ
 〇〇、八〇マテ
 二、〇〇
 一、五〇ヨリ
 五、〇〇マテ
 一、五〇ヨリ
 一、五〇マテ
 〇、五〇
 〇、五〇ヨリ
 一、〇〇迄
 四、〇〇
 二、五〇
 一、二五
 一、〇〇
 〇、六〇

職人大工石全

切等

二、〇〇

支那人コック一ヶ月給料

一五、ヨリ

朝鮮人下男全

一〇、迄

露人日本人下女全

八、ヨリ
十五、迄

右表に由て見る時は。此地十年前の物價は。今日に比して非常に高價なるを知るへし。而して今後の趨勢を察するに。此地の漸く發達繁盛するに従ひ。各地との交通も次第に便利となり。日用品物價の如きは。倍々廉にして。而して生活の便利は亦今日の比にあらざるに至らんとす。

單に生活の點より見る時は。露人は素より他の歐米人と雖も。今日に至りては此地に於て甚しき不便を感ずるとなし。朝鮮人支那人等は已れの郷里と異なることなく。寧ろ已れの郷里よりも便利を感ずると多かるへく。日本人の如きは長崎よりするも。新潟よりするも。若くは箱館よりするも。共に一葦帶水を隔つ

るのみにして。唯運賃丈高價を拂へは。郷里の物品を心の儘に用ゑるを得るにより。氣候る寒近なるより外は。左のみ生活上に困難を覺ふことなし。

家屋は冬分寒氣を防ぐを以て主とせざるへからざるを以て。我日本に於けるか如く。輕便なる能はず。支那人風の家屋は空氣の流通惡しく。暖爐の構造も完全ならざるが故に。冬分は寒くして住するに堪へず。朝鮮人の家屋の如きは。尙一層甚しく。共に衛生に適せず。露人の家屋に至りては。防寒の法最備はれり。縱令下等社會の住する小屋と雖も。暖爐の構造は皆衛生に適せり。建築の材料たる木材は。未だ不足を告ぐるに臺らす。煉瓦製造所三ヶ所あれども。甚だ高價なり。即ち一千個にして並物大形二十「ルーブル」位とす。石材は粗質の物のみにして良石なし。而して石工の技拙なくして。雇賃甚だ貴とし。故に此地の建物は木造最も多く。屋根は亞鉛を以て葺きたるものあれども。多くは板屋根なり。夏分は生活上の用度別に變りたることなしと雖も。冬分航海の通せざると。寒氣

職人大工石切等全

一、〇〇〇

支那人コック一ヶ月給料

一五、ヨリ

朝鮮人下男全

一〇、迄

露人日本人下女全

八、ヨリ
十五、迄

右表に由て見る時は。此地十年前の物價は。今日に比して非常に高價なるを知るへし。而して今後の趨勢を察するに。此地の漸く發達繁盛するに従ひ。各地との交通も次第に便利となり。日用品物價の如きは。倍々廉にして。而して生活の便利は亦今日の比にあらざるに至らんとす。

單に生活の點より見る時は。露人は素より他の歐米人と雖も。今日に至りては此地に於て甚しき不便を感ずるとなし。朝鮮人支那人等は已れの郷里と異なることなく。寧ろ已れの郷里よりも便利を感ずると多かるへく。日本人の如きは長崎よりするも。新潟よりするも。若くは箱館よりするも。共に一葦帶水を隔つ

るのみにして。唯運賃丈高價を拂へば。郷里の物品を心の儘に用ゑるを得るにより。氣候る寒近なるより外は。左のみ生活上に困難を覺ふことなし。

家屋は冬分寒氣を防ぐを以て主とせざるへからざるを以て。我日本に於けるか如く。輕便なる能はず。支那人風の家屋は空氣の流通惡しく。暖爐の構造も完全ならざるが故に。冬分は寒くして住するに堪へず。朝鮮人の家屋の如きは。尙一層甚しく。共に衛生に適せず。露人の家屋に至りては。防寒の法最備はれり。縱令下等社會の住する小屋と雖も。暖爐の構造は皆衛生に適せり。建築の材料たる木材は。未だ不足を告ぐるに臺らず。煉瓦製造所三ヶ所あれども。甚た高價なり。即ち一千個にして並物大形二十「ルーブル」位とす。石材は粗質の物のみにして良石なし。而して石工の技拙なくして。雇賃甚た貴とし。故に此地の建物は木造最も多く。屋根は亞鉛を以て葺きたるものあれども。多くは板屋根なり。夏分は生活上の用度別に變りたるをなしと雖も。冬分航海の通せざると。寒氣

の度高きとにより。我日本人等に取りては著しく不便を感ず。衣服の如きは冬籠りの爲めに、特別の用意なかるへからず。即ち帽子、靴、手袋より足袋に至る迄、皆寒氣を防くに適せざる可らず。而して冬日外出するには、毛皮を裏につけたる外套を着るを善しとす。戸外の力役に従事する者の如きは、冬分は大抵其業を中止する覺悟なかる可らず。冬の將さに近かんとする時は、他地方への郵便往復、及び貨物の取寄方等遺漏あるへからず。否らされは結氷の後に至りては、亦如何ともするに能はず。

毎年冬期結氷中に、物貨の賣切を生ずる時は、其品の價非常に騰貴し、常價の數倍に達するとあり。是皆日用品、米、麥粉、石油、蠟燭、砂糖、牛酪等の諸品にありとす。然れども此地商業の次第に發達するに従ひ、商賈は充分の注意を以て仕入をなすか故に、此の如き暴騰は昔日に比して稍尠なきに至れり。

一千八百八十六年の調査によれば、市内家屋の區別は左の如し。但し兵營及び

官舎を除く。

- 公有平家木造り 十二
- 私有平家木造り 五六七
- 全 二階木造り 一八
- 全 平家石造 三五
- 全 支那風石造 一六
- 全 支那風木造 一二四

第八章 埠頭及市場

埠頭は市場に近き所に一ヶ所あり。岸に沿ふて廣さ六十六「サーゼン」石垣の前面には木棧を附して、舢舨の繫附け、及び物貨の揚げ卸しに便す。此埠頭の前に各商船碇泊するを常とす。埠頭には支那人の舢舨充塞し、人の此處に来るあれは、支那人等争ひ來て客を引くと、我國の腕車の寄場に於けるか如き思ひあり。

其傍らには支那形の帆船岸に連繋するもの甚た多し。又埠頭に税關吏の見張り所あり。其后面は即ち市場なり。

此埠頭の外に露國の義勇艦隊の埠頭あり。他船は一切之を用ゆるを得ず。其邊海水頗る深くして。如何なる大船巨舶たりとも。直に棧橋に横繋して。貨物の積卸しをなすを得。

右の外にシエウエリヨーフ商店に屬する埠頭あり。又其他海軍に屬する波戸場三ヶ所あり。

市場は埠頭の傍に在りて。海岸に臨み。其後には樹木を植附けあり。四列の木造家屋より成りて。三條の市街をなせり。一列の家屋を幾十戸に區分し。何人と雖も一戸を借り受けて商業をなすを得れども。此「バザール」は。從來支那人の專有する所となりて。支那人に非されは市場の商業をなす不能はさるものゝ如し。鳥獸肉、野菜、果物、雜穀其他の食料品は。皆此市場の賣買に由らさるなく。毛皮

革衣織物類一切の諸雜貨。凡そ露の農民兵士及び其他の力役者等の下等社會が要する所の者は。一として備具せざるはなし。故にコック、ボーイ等の輩は毎朝買出しの爲め。此に會し。兵士等は祝日には此に集ひ。其他の下社社會常に群集して。其雜沓甚たし。○市場一戸の家賃は。一ヶ月六十「ルーブル」にして。一人にても二戸三戸を所有し得へく。稍勝れたる商人も其内に在るものゝ如し。

第九章 市街、道路、橋梁、下水、公園、街燈

市街はゾロトイ、ロツク灣の岸に沿ふて一帯の地を占め。一面はアムールスキ灣に臨み。延長七里に亘る。海岸より後面小高き山上に掛けて道路を經緯し。市街を八十に分ち。各々其名を命せり。市街中最も重要な位置を占めたるは。海岸の一帶。即スウエトランスカヤ街なりとす。露獨清等の諸商店は。重もに此中に在りて。車馬人行最も繁く。稍市街の觀をなせるものは。實に此街に止まれり。其他は唯に街路を豫定したるのみ。家屋も疎稀にして。車馬人行も亦頗繁なら

す。未だ市街を以て稱すへからざるなり。街上の道路は平坦ならず。殊に雪解け大雨等の際しては。泥濘甚だ深く。殆んど歩行に堪へず。山上より落ち來る谿流數條ありて。街上を横過し。海に入る。此には木橋を架す。大雨の際しては。溪流増水して。橋を損するに至ると尠ならず。街路の兩傍には。深溝を穿ちて下水を通し。其上に板を置きて。通行を得せしむ。然るとも。此下水溝は。唯土を掘りたるのみにして。石を以て旁縁を築かざるが故に。傍岸屢々缺陥して。大に危嶮を覺ふるにあり。其蓋板の如きも。屢々取換を要し。年々市費の多分を費やす者の如し。○公園は一の「アドミラル」園あり。此園中夏時は。毎水曜、金曜及日曜の日に。海軍の軍樂を奏す。何人と雖も。随意に入場するを得へし。毎年一回此園にて。慈善宮籤興行あり。此日のみは。金を拂ふて入るを要す。園庭の結構は。純粹なる露國風にして。頗る風致を欠き。樹木の種類も。花木尠なきを以て。日本人の眼には。見るべきもの更になし。

第十章 雜業

理髮職 露人の理髮床一ヶ所。日本人一ヶ所あり。支那人の理髮を業とするものも甚だ多けれども。是其國人の間に業を營むのみ。他國人の之に依頼するものあるをなし。

洗湯 室を分ち番號附けとせる湯屋二ヶ所あり。共に露人の營業なり。一室一「ループル」より二「ループル」又。一人二十五「コペーキ」及五十一「コペーキ」のものあり。外に一人五「コペーキ」より二十「コペーキ」のものあり。支那人の湯屋一ヶ所。日本人の湯屋一ヶ所あり。共に一人十「コペーキ」なり。

海水浴 先きに海水浴場を造りて營業したるものあれども。得失相償はすして廢す。今は之なし。

客店 客店は三四家ありて。旅客の爲めに大なる不便を感せしめず。一晝夜の宿料一「ループル」乃至三「ループル」にて。狭小なる二室を貸與ふるのみ。賄は之

れか外なりとす。或る一店の如きは。晝食晩食は共に「ルーブル」にて。一鉢宛の注文は五十「コペーキ」なり。一ヶ月間約定にて晝食を取れば。二三十「ルーブル」なり。他の一店の如きは。一ヶ月の宿賄料とも。總て五十五「ルーブル」と定めたり。日本人の旅宿一店あり。一泊八十「コペーキ」にして日本人の外。外國人は宿泊するとなし。支那人中にも客店あり。是又同國人の宿泊に止まれり。而して支那商賈等は。大抵己れの知己の家に宿泊するを常とす。

飲食店 菓子屋珈琲店あり。居酒屋あり。支那料理店あり。其中に就きて各上中下等の別あり。麵包製造家も尠なからず。半は歐人。半は支那人の業なりとす。麵包は一「フロント」三「コペーキ」より十一「コペーキ」に至る。最も安き者は。黒パンとて。露國に於て著名なるものなり。

藥店 藥店は唯一あるのみ。故に醫士の方箋を携へ行きて藥を取るに。路程の遠隔なると。又た時として久しく待たせらるゝの不便あり。急病等には甚だ困

難なるとなり。

病院 海軍病院ありて。市民の入院を許す。一晝夜に入院料六十五「コペーキ」なり。然れども傳染病は謝絶せらる。陸軍病院もあれども。市民は一切入院するを得ず。

醫師 市中には若干の師醫ありて。不便を感ずるとなし。齒科醫は一人もなし。時々日本より來り治療をなすとあれども。常住せざるか故に來れる時を待ち。争ふて治療を受けんとを望むものゝ如し。

寫眞師 一人の寫眞師あり。其技術は太だ精ならされども。別に巧手なきを以て。相當の依頼者あり。時々長崎の寫眞師等來りて。夏期のみ稼ぎ。冬は止まらず。水質不良なるか爲めに。仕上げ方頗困難なりと云ふ。

新聞 「ウラジナストク」と稱する毎週發行の新聞あり。新聞代郵送費とも。一ヶ年十二「ルーブル」五十「コペーキ」なり。港内の出來事。大凡網羅せざる存し。歐羅

巴、露西亞、西比利亞內地各所、支那、朝鮮、日本各地よりする通信を掲載し、舩裁亦善し。

私立活版所を有せず。故に必要な時に臨みては、官設の活版所に依頼せざる可らず。而して其印刷料甚た貴とし。

第十一章 住人の遊樂

何れの國に於ても、戶外の遊樂は公園より善きものはあらず。然るに此地の公園は僅かに一ヶ所にして、且園内に風致饒かならざるを以て、屢々訪ふに足らず。然れども春夏の際稀に好天氣を得は、一番河或は二番川の邊に、郊外の散策を試みるも亦惡からず。

或は支那人の舩舟を雇ふて、港口の岬端に釣を垂るゝも可なり。夏時晚涼を追ふて、埠頭の邊に至れば、晝間の炎暑を洗ふに足り。秋時の紅葉も亦見る可きものあり。

冬の氷橋も愉快なる遊びなり。海上氷始めて結ぶや、其上平坦にして、鏡面の如く。四望玲瓏たり。此時滑金スベキ鋼鐵製船底形の者を附したる沓を履きて、其上を滑へる露人は、大人小兒とも能く熟練して甚た巧なり。他國人の之を學ぶ際には、屢々氷上に顛倒して、見苦しきものなり。其氷上を滑り行くは、甚た速迅にして、走馬と雖も之に及ばず極て爽快なり。

又坂地を求めて之に水を注ぎて、凍結せしめ、其上を蹺車スベキの如きものに乗る。杖頭を以て操つりつゝ走り、下る遊びあり。是は男女相伴ふて遊ぶもの亦尠なしとせず。他國人の眼には隨分危險に思はるゝ遊びなり。

室内遊嬉には、骨牌盛んに行はれ、客店等に於ても三々五々相集ふて、此遊びをなすもの甚た多し。

舞踏會あり。音樂會あり。覆圍踊及狂言等も時時に催さる。時としては輕業師の日本より來りて興業するにあり。

第十二章 電信、郵便、警察、消防、法衙、其他諸種の集會等

浦鹽斯德に郵便電信局あり。春の解氷の時と秋の結氷の時と。年内の二期は郵便を通せず。ウスリーアムール等の諸河は。夏時は汽船を用ひ。冬時は河水の上に道路を開き。以て僅かに交通の氷をなせとも。結氷及解氷の際。各各一ヶ月餘は。汽船を通せず。亦氷上の道路牢固ならずして。通交全く杜絶するなり。歐部露西亞より義勇艦隊の持來る書狀の如きは。凡一ヶ月半にして受取るを得。日本よりする郵便物は。我郵船會社の船舶入港毎に。之を受取り。日本曆十二月下旬より。四月中旬迄の間。結氷中は郵便を通せず。此結氷中は海上の郵便線路は一切壅塞し。唯陸上の線路を通ずるとあるのみ。此間便郵線路の斷絶するところは。我商賈等の爲めに不便實に云ふ可らず。然れども之を電信に依頼する時は。電信料甚た貴とし。故に大事に非ざるよりは。電信を用ゆるとなく。空しく郵便を忍んで。解氷の時を待つの外なし。若し朝鮮内地に郵便法開くるに至ては。

此不便は忽ち挑除するを得べし。

此郵便電信局の外に。唾馬電信會社の電線あり。日本間の海底線の如きも。此會社に属す。

警察署あり。署長一人。警部三人。巡查二十五人を以て組織す。如斯の人員にて港内の取締充分ならざるは。無論にして。隱伏せる罪惡も甚た多かるへし。市内に住する下等社會は。最も支那人朝鮮人の内に多く。時として其内に盜賊の潛伏するをなきにあらず。然れども之を探索して驅逐すると甚難し。斯る不完全なる警察の保護は。到底依頼す可からず。畢竟自衛る覺悟なかる可らず。巡查の如きは晝間喧嘩の取分けをなす位に止まり。夜警の効をなすと殆ど稀なり。昨干八百九十一年の如きは。鐵道工事場より脱走したる罪人。市内に現て出。白晝に人を殺すに至り。其危嶮實に云ふ可らざりしとあり。警察の傍に獄舎あり。多數を容るゝに堪へず。

市内の家屋は稀疎にして、構造も稍堅牢なるが故に火災は極めて尠なしとす。先きに市場の家屋は二回全焼したる事あり。故に現今其家屋内に於ては、火を揚ぐるを許さず。清人朝鮮人の家屋は頗る粗末の構造にして、火を取扱ふとも多きが故に、頗る危険なりとす。一旦火を失する事あれば、夏期は用水に乏しからざるも、冬時は充分水を得るに處なく、袖手傍觀、其焼失に任するの外なし。消防組の設けあり、若干の消火器具を備ふ。外に支那人より組織せる一百人の消防組ありて、失火の時は皆章印の衣服を着る。

地方裁判所の設けあり。海陸軍俱樂部あり。商人俱樂部あり。中小學校あり。圖書館の設けあり。黒龍江學會なるものあり。千八百八十四年の設立にして、時に其雜誌を發行す。

赤十字社、及び水難救濟會は、千八百八十一年の設立に係れり。

第十三章 南ウスリー地方各地の景狀

ニコリスク(南ウスリー)地方中浦鹽斯徳に次ぐ地をニコリスクとす。ニコリスクは浦鹽斯徳を距ると僅かに百里、一條の國道を通ず。其間に四驛を置き、各驛に四對の驛馬を有し。馬一匹一里に付、三三〇ペーク宛及び各驛の通過に馬一匹に付、十〇ペーク宛の納税に由て之を旅行の用に供することを得。(但シ夏時ノ旅ハ驛ヲ驛ヨリ出ス、其大サハ二三人乗リ、或ハ一人乗リニテ、少々ノ手荷物位ヲ容ル、ニ足ル、)

此道路は浦鹽斯徳よりニコリスクを経て、カーメンルイバロフに達するものなり。夏時は浦鹽斯徳より漁船「ノー井ク」號にて、「レーチヌイ」に至り。レーチヌイにて川漁船「ビナチル」號に乗り移り、スイフン河を溯ほりて、ラズドリー驛に至り。是より陸路を取るとを得るなり。「ノー井ク」號の運賃は表に因りて知るべく、「ビオチル」號の運賃上等三「ループル」下等二「ループル」なり。貨物の運送は、別に支那人の荷舟を雇ふて引舟せしむるなり。而して此水路は陸路よりも大に便利なりとす。

ニコリスク村はファイフン河を距ると二里半ラヨーフカ河に臨める平地を占め。道幅十五「サーゼン」にして平坦なり。住民は多くは農夫にして。其家屋一般に木造にして。石灰を以て白く塗りたるものなり。

兵管あり。歩兵三大隊を有す。近頃設けられたる公園、寺院、學校、支那人の市場、及び數箇の風車製粉場あり。郡衙あり。警察あり。浦鹽より。プリヘルス及びチエーリン商店の支店あり。外に三四の小店あり。雜貨の價格は。浦鹽よりも較貴しとす。

ニコリスクは南ウスリー地方中。農業の中心とも云ふべき地にして。耕地大に開け。穀價は浦鹽よりも遙に賤しとす。凶作の原因ともなるべきは。大雨大旱、河の満水、及少水等なり。通常の作にて麥粉の價。一「ブード」に付二「ルーブル」乃至二「ルーブル」二十五「コペーク」。燕麥全五十「コペーク」餘なりとす。牛酪は一斤五十「コペーク」より七十「コペーク」に至り。牛乳は一瓶十五「コペーク」を常とす。

辻馬車は村の一端より一端に至る迄の賃錢。五十「コペーク」にして。一時間は一「ルーブル」なり。洗湯あり。一人に付五十「コペーク」の湯錢にして。毎土曜日の外は之れなし。

氣候の浦鹽新徳に勝りたる所は。其海上の霧を受くるとなきこと。冬時風の較に和らかなるとなり。以上の叙する所によるも。ニコリスクは更に生活の不便を感ずるとなきの地たるを知るへし。

(ラズドリー)ラズドリー村はスイフン河に據り。浦鹽新徳とニコリスクとの殆んど中間にあり。少數の農民ありて。耕作に従事す。此地より浦鹽新徳ニコリスク及びポシエットの三方に驛路を通す。軍事上大に注目すべきの地とす。氣候も亦恰も浦鹽とニコリスクの中間にあり。生活上の事。稍ニコリスクに類すと知るへし。

(カーメン、ルイバロフ)村はハンカ湖の西岸に位し。此處より夏時汽船を發して。

ハバロフカ間の航路を通ず。冬に至れば河水の上に驛路を通ず。即ちハバロフカウラジウとの間。交通の要路に當るを以て。他の驛村に比し。一層繁榮の觀を呈す。住民は農夫及び「カザク」兵よ成り。穀物の供給満足し。燕麥の如きは餘分をアムール地方に積出す。三戸の商店ありて。此地の商業を掌握せり。風光頗る佳にして。氣候も亦た近傍各地に比して溫和なり。

〔ポシユット〕シユット港は浦鹽より殆んど一緯度の南に在り。灣内水深くして大船巨船を客るゝに足り。氣候は浦鹽斯德に比すれば。寒暑共に較和らかに。結氷期間も隨て短く。即ち前後にて一ヶ月の差あり。汽船「ノー井ク」號を以て浦鹽との間に。一ヶ月六回の定期航海をなし。加之ならず。汽船「バイカル」號等も。浦鹽と日本との往復航路中。此港に寄港するにあり。陸軍の一大隊を置かる。住民の半なるものは。軍人及其家族にして。若干の露商。及支那商あり。皆浦鹽斯德より貨物を取寄せ販賣す。

〔ヤンナハ〕ポシユットより西の於十二里にして。ヤンナハアリヤンナハは又ノチキエノスコユと云ふ。陸軍二大隊を置く。其他境界委員コウヂ警察。寺院。郵便電信局。砲臺等の設置あり。此地南ウスリー地方中の最南部に位して。支那朝鮮と境を接し。隨て氣候も同地方中最も溫和に。穀價も貴からず。平地にして耕作の地に乏しからず。水禽野鳥の類甚だ多く。野獸も亦尠しとせず。故に生活の容易なるは遠く他地方の右に在り。

ヤンナハより三里にして。朝鮮人の居村あり。皆農民にして家畜を有し。穀物野菜等を耕作す。傍にヤンナハと稱する小川あり。支那境上の山間より發し。ヤンナハの郊外平野の間を流れて。灣内に注ぐ。河岸の地頗る沃饒にして。大抵耕作に適せざるはなく。又平原には嫩草を生じ。甚だ牧畜に善し。

ヤンナハは高山を以て海霧を遮ぎるか故に。其氣象はポシユットよりも優れり。即ち夏は溫氣少なく。冬は寒さ強からず。然れども雪は稍他地方よりも

多く、而して冬時橇を用ゆる能はず。

ヤンナハより琿春府に達するの道路は、極めて粗悪なる道路にして、唯山間の凹所に強て車馬を驅りて道を鑿ちたるに過ぎず。兩所の中間は丘陵一帯の山脈を以て横截せり。之を清露兩國の境界とす。此山上に清國の番所あり。其傍に關帝廟を置き、銅標を建てたり。標上に刻文あり。有名なる吳大徵氏の記する所なり。山を越へて清境に入れば、一區沙漠たる平原あり。農民の家屋其間に散見す。遙に望めは一基の城郭西の一方に屹峙し。其左右各里許にして砲臺あり。巍々として三方相鼎峙し。其壯觀人をして快然たらしむ。清人等誇て曰く、本城には三千の兵、左右の砲臺に各一千、都て五千の兵を以て此地を守ると。知らず其實數實用は彼か云ふ所の半ばに達するを得るや否。

ヤンナハより南に向て朝鮮に通ずるの道路あり。此道より朝鮮人等毎年、生牛を牽き三々五々相伴ふて露境に入る。

ヤンナハの地位たる前はポシエットの良港を有して、後は支那朝鮮に通ず。頗る樞要の地位に在り。

(スーナヤン)スーナヤン河一帯の地方を、スーナヤンと云ふ。浦鹽より每路スーナヤンに至るには、漁船ノ一井ク一號一ヶ月に三回、乃至五回の航路を開く。陸路は浦鹽より、凡三百露里。浦鹽より驛路リヤンナハ驛或はポドゴーロドナヤ驛に至り。それよりナムヘマイヘ等支那人の居村を馬上にて旅行し。スーナヤンに達するなり。

スーナヤンには、熊、虎等其他野獸尠ならず。居民は朝鮮農夫、及露國農夫なり。スーナヤン河の河口に近く、ウラジミルアレクサンドルスコエ村あり。此村に警察屯所あり。又五十人の「カザク」兵を置く。

(オリガ)スーナヤンより支那人居村等一スンフヂン等を経て、オリガ港に達す。里程二百三十露里なり。此間も亦た馬上の旅行なり。オリガ灣内の風景は極めて

佳なり。野獸には虎、熊、猪、鹿、山羊等あり。又鴨、雉子、リヤナク等の鳥類多し。以て遊獵を試むるに足れり。

海路は漁船「バイカル」號毎年夏時浦鹽より三度ニコライスクより四回。此に寄港するのみ。

警察屯所あり。昆布倉庫あり。而して電信郵便は未だ設けられず。氣候は浦鹽に比すれば稍可なり。然れども一年中七ヶ月間は。世界の外に孤立の地となるなり。

浦鹽斯德畢り

10/1/35

明治廿六年七月廿二日 印刷
同 年同月廿六日 發行

定價金五圓

著作者

東京麹町區中六番町十番地
白活研學會主

片 洲 琢

發行者

東京麹町區富士見町登丁目卅四番地

齋 藤 次 郎

印刷者

東京神田區表神保町十番地

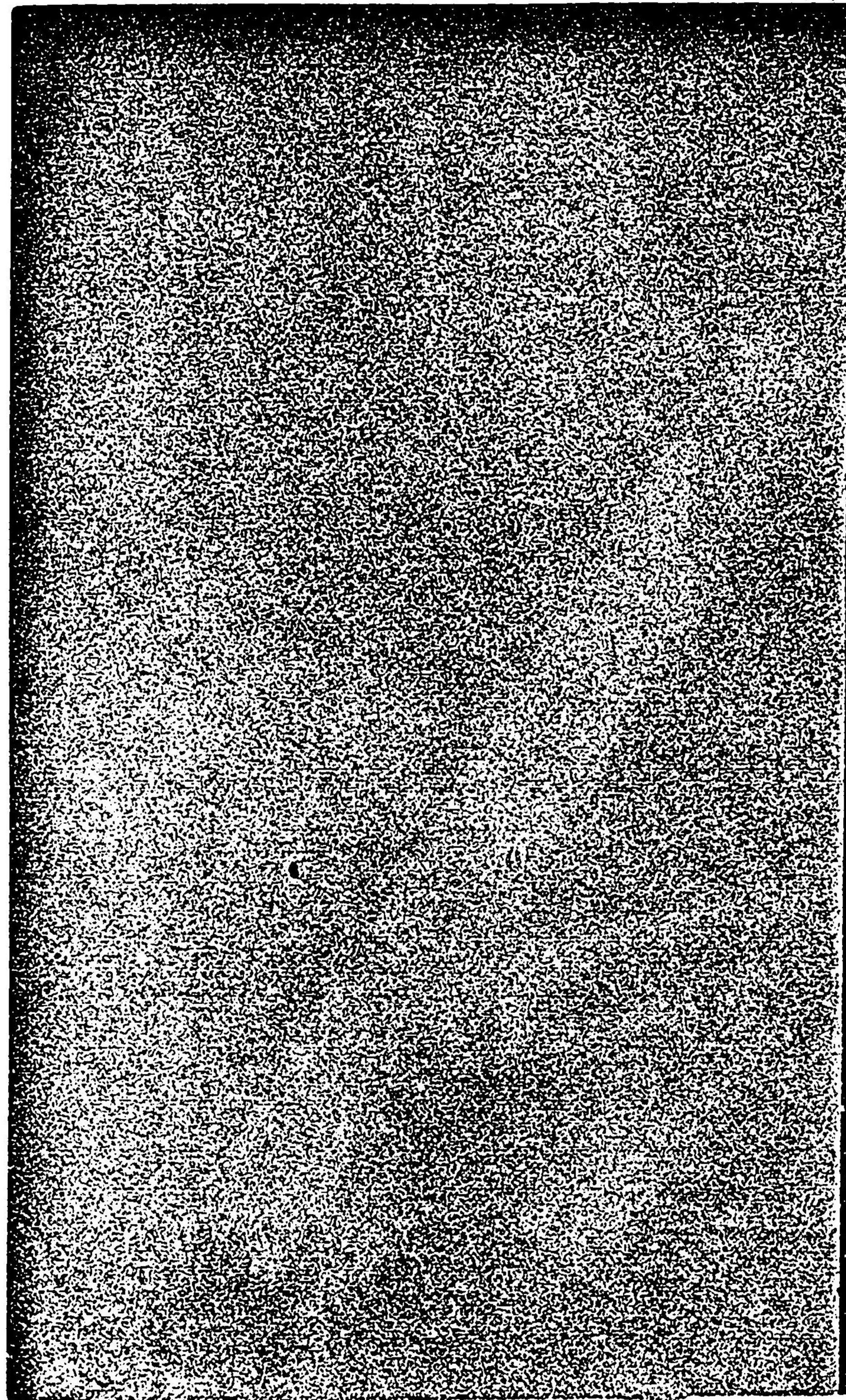
木 田 川 金 松

發賣所

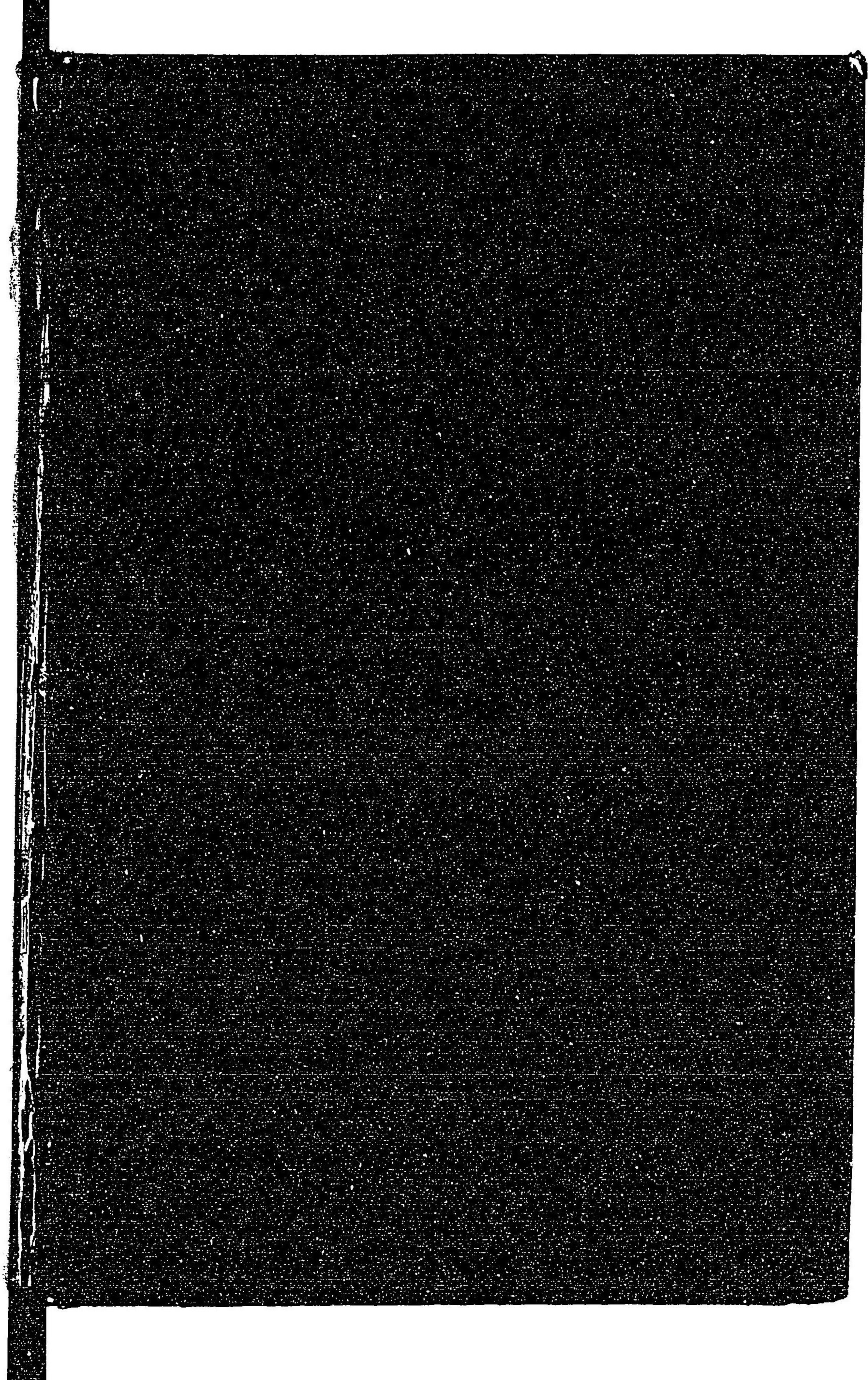
東京麹町區富士見町一丁目卅四番地

益 友 社





42
232





003035-000-3

42-232

哥索克東方侵略史

片淵 琢(卓枝) / 著

M26

ACC-0439



